

経理事務の正確性は
まずここから

現金過不足が 発生したときは どうする？

現金を取り扱う以上「現金過不足」はどの企業にも発生し得るものですが、その発生は決算書の信頼性にまで悪影響を及ぼします。本稿では、現金過不足の原因と対応、予防策について、事例を交えて解説します。

税理士法人山根総合会計事務所 代表
税理士

山 根 陽 介

現金過不足の 原因

「現金過不足」とは、企業や組織における現金の管理上の問題から生じる、帳簿上の現金残高と実際の現金残高が一致しない状況のことをいいます。

現金過不足の原因は多岐にわた

(1) 記帳ミス

現金取引を記録する際に、誤った金額を記帳してしまうことがあります。

たとえば、現金受取りや支払いの際に、誤って過大にあるいは過小に金額を記帳してしまうと、現

りますが、主なものを以下に挙げます。

金過不足が発生します。

(2) 計算ミス

現金のカウントや計算時のミスも一因です。特に多量の現金を扱う場合、手作業での計算にはミスが発生しやすくなります。

(3) 不注意・不慣れなことによるミス

現金を扱う担当者の不注意や不慣れによるミスも、現金過不足の原因となります。新入社員やアルバイトの従業員などが、慣れない作業を行なう場合に発生しやすいミスです。

(4) 不正行為

従業員等による横領や窃盗などの不正行為も、現金過不足の原因の1つです。内部統制が不十分な場合、不正行為が見過ごされるリスクがあります。

現金過不足の 影響

現金過不足が発生すると、企業や組織にさまざまな影響を及ぼします。

(1) 信頼の低下

現金過不足が頻発する企業や組織は、取引先や顧客からの信頼を失う可能性があります。特に不正行為が疑われる場合、企業の信用

に大きな打撃を与えることになります。

(2) 財務報告への影響

現金過不足により正確な財務報告ができなくなると、経営判断が誤ったものになるリスクがあります。これにより、経営戦略や資金繰りに悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) コストの増加

現金過不足の調査や是正措置にかかるコストも無視できません。監査や内部調査の費用、人員の追加配置などが必要となる場合があります。

現金過不足の 対策

前述のとおり、現金過不足は企業や組織にさまざまな影響を及ぼす深刻な問題であり、その原因は記帳ミスや計算ミス、不正行為など多岐にわたります。

この問題を放置すると、信頼の低下や財務報告への悪影響、コストの増加などさまざまなリスクを伴います。

現金過不足の発生を防ぐためには、内部統制の強化や適切な記帳、定期的な監査の実施が重要になります。

■現金過不足の原因と対策

原因

記帳ミス…現金取引を記録する際の誤った記帳

計算ミス…現金を収受する際の、現金のカウントや計算の誤り

不注意・不慣れなことによるミス…主に新入社員やアルバイトの従業員などの不注意・不慣れな作業による誤り

不正行為…従業員による横領や窃盗

対策

内部統制の強化…複数の担当者によるチェック体制の構築

定期的な監査…内部監査や外部監査を定期的に行い、現金管理の状況を確認

教育・訓練…特に新入社員やアルバイトの従業員に、現金管理の基本を教える

技術の活用…POSシステムや会計ソフトウェアなどの技術の活用

これにより、企業の信頼性を維持し、正確な財務報告を行なうことができます。

以下に、効果的な現金過不足の対策を解説します。

(1) 内部統制の強化

現金管理に関する内部統制を強

化することが必要です。

具体的には、現金を取り扱う際のルールを明確にし、複数の担当者によるチェック体制を構築することが効果的です。

(2) 定期的な監査

内部監査や外部監査を定期的に行い、現金管理の状況を確認することが重要です。監査によって問題点を早期に発見し、是正することが可能となります。

(3) 教育・訓練

現金を取り扱う従業員に対する教育や訓練を徹底することも有効です。

特に新入社員やアルバイトの従業員には、現金管理の基本をしっかりと教えることが必要です。

(4) 技術の活用

POSシステムや会計ソフトウェアなどの技術を活用することで、記帳ミスや計算ミスを減らすことができます。これにより、現金過不足のリスクを大幅に低減することができます。

現金過不足を防止する現金管理の方法

現金過不足を防止するためには、現金管理の方法を見直し、適切な手続きを導入することが重要

です。

以下にいくつかの管理方法を紹介します。

(1) 現金出納帳の導入

現金出納帳を導入することで、日々の現金の出入金を詳細に記録することができま

す。これにより、現金の流れを把握しやすくなり、現金過不足の原因を特定しやすくなります。

(2) レジ締め

レジを使用する場合、毎日の営業終了後にレジ締めを徹底することが重要です。これにより、日々の現金残高を確認し、過不足が発生した場合に迅速に対処することができま

す。

(3) 月次の現金実査

月に1回は現金実査を行ない、帳簿上の残高と実際の現金残高が一致しているかを確認しま

す。この実査を通じて、記帳ミスや計算ミスを早期に発見し、現金過不足へ対応することができます。

(4) 入出金伝票の活用

現金の入出金に関しては、必ず伝票を発行し、詳細な記録を残すことが重要です。これにより、現金の流れを追跡しやすくなり、現金過不足の原因を明確にすることができま

す。

現金過不足の発生時の会計処理

現金過不足の処理方法は、その原因が期末までに特定されたか、特定されなかったかによって異なります。

まず、現金過不足が判明した時点で、現金過不足勘定を使用し、実際の現金残高と帳簿上の差異を記録しま

す。原因が特定された場合には、現金過不足を適切な勘定科目に振り替えます。

現金過不足の原因が特定できない場合には、期末に損益勘定に振り替えます。

以下に、具体的な会計処理について説明しま

(1) 現金過不足が判明したときの会計処理

たとえば、記帳ミスや計算ミス、現金の収受に問題があった場合に、実際の現金残高と帳簿上の現金残高に差異が生じます。

【例：現金不足が1,000円発生した場合】	
(借) 現金過不足	1,000
(貸) 現金	1,000

【例：現金過多が500円発生した場合】

(借) 現金 500
(貸) 現金過多 500

(2) 現金過不足を解消するための会計処理

現金過不足が発生した後、その原因が特定された場合、その原因に基づいて、現金過不足を適切な勘定科目に振り替えます。

① 現金過不足の原因が特定された場合

たとえば、費用の仕訳モレであった場合、ミスを修正するための振替仕訳を行います。

【例：消耗品費の計上モレにより現金過不足が生じた場合】

(借) 消耗品費 1,000
(貸) 現金過不足 1,000

たとえば、売上が未記帳であった場合、現金過不足を売上高に振り替えます。

【例：売上が500円未記帳であった場合】

(借) 現金過不足 500
(貸) 売上高 500

② 現金過不足の原因が特定されなかった場合

現金過不足の原因が期末までに特定できなかった場合、期末において、現金過不足を損益勘定に振り替えます。

(i) 現金不足の場合

期末までに現金不足の原因が判明しなかった場合、現金過不足を雑損失に振り替えます。

【例：期末までに現金不足1,000円の原因が判明しなかった場合】

(借) 雑損失 1,000
(貸) 現金過不足 1,000

(ii) 現金過多の場合

期末までに現金過多の原因が判明しなかった場合、現金過不足を雑収入に振り替えます。

【例：期末までに現金過多500円の原因が判明しなかった場合】

(借) 現金過不足 500
(貸) 雑収入 500

なお、現金過不足は原因が判明するまで、または決算時まで仮に処理しておくための勘定科目である。



るため、消費税は対象外です。

同様に、原因が判明せず決算で「雑収入」もしくは「雑損失」に振り替える場合も、消費税は対象外です。

現金過不足のケーススタディ

ケーススタディを通じて、実際の企業がどのように現金過不足の問題に対処しているかを学び、自社の管理方法を改善するヒントとすることができま。

実際の企業がどのように現金過不足の問題に対処しているかを、ケーススタディ形式で2例紹介します。

「ケース1：小売店の現金過不足」

ある小売店では、レジでの現金過不足が頻発していました。原因を調査したところ、新人アルバイトによる記帳ミスや計算ミスが主な要因であることが判明しました。

この問題に対処するため、問題が発生していた店舗で、以下の対策を講じました。

- ・新人アルバイトに対する現金管理の研修を強化

- ・毎日のレジ締め作業をダブルチェック体制に変更
- ・POSシステムを導入し、手作業での計算ミスを削減

これにより、現金過不足の発生頻度が大幅に減少し、店舗の経理業務に対する信頼性が向上しました。

「ケース2：製造業の現金過不足」

ある製造業の企業では、現金出納帳の記録と実際の現金残高が一致しないことが度々発生していました。

調査の結果、現金出納帳への記入漏れや計算ミスが原因であることがわかりました。

これに対して、当該企業は以下の措置を講じました。

- ・現金出納帳の記入方法を見直し、記入漏れが発生しないように改善
- ・現金実査の頻度を月次から週次に変更し、早期発見と是正を徹底
- ・会計ソフトウェアを導入し、記帳ミスを防止

これにより、現金過不足の問題が解消され、財務報告の精度が向上しました。